

今年度の活動

2017 年度は IAMAS に赴任して 2 年目を迎え、メディア表現研究における研究手法の確立を中心に据えた 1 年であった。

個人研究として、科学研究「1960～70 年代に見られる芸術表現の研究拠点形成と資料アーカイブの構築」において、論考、オーラル・ヒストリー、資料編纂を通じた研究成果を、国立新美術館および IAMAS の紀要にて発表した。また、日本美術オーラル・ヒストリー・アーカイヴへの参加・実践を通じて、他大学、他機関との連携による研究体制の強化を図った。

IAMAS での共同研究としては、受託研究として、平成 29 年度「文化庁メディア芸術所蔵情報等整備事業」メディア・アート分野の業務を担当し、調査研究を実施した。学内では、新たにメディア・アート・センター・ワーキンググループに参加し構想に携わる他、図書委員会メンバーとして、渡部葉子（慶應義塾大学アート・センター教授）を招聘した FD 研修を企画した。

メディア表現研究の実践として、松井茂との共同企画による、第 7 回岐阜おおがきビエンナーレ「新しい時代 メディア・アート研究事始」のシンポジウム+資料展示では大きな成果を挙げることができた。メディア意識を背景とした芸術表現の問い直しについて徹底的に議論し、資料化の研究的位置付けを検討したことは、次年度の研究的枠組につながる収穫であった。シンポジウム「再演、再制作、再展示」「資料の読み書きと教育」ではモデレータを担当し、企画全体の成果を IAMAS の紀要へ収録した。

◎講演、その他

【講演】2017 年 7 月 23 日「場所・感覚・メディア」前林明次、伊村靖子、西山恒彦（岐阜県美術館講堂）

【講演】2017 年 12 月 4 日「ポスト・ジョン・ケージを考える～三輪眞弘をめぐる」白石美雪、松井茂、伊村靖子（コ本や honkbooks）

【講演】2017 年 12 月 9 日 伊村靖子「1960～70 年代に見られる芸術表現の研究拠点形成と資料アーカイブの構築」アーカイブ研究会「井上隆雄写真資料に基づいたアーカイブの実践研究」（京都市立芸術大学芸術資源研究センター）

【シンポジウム】2017 年 12 月 19 日「新しい時代」久保田晃弘、藤幡正樹、三輪眞弘（IAMAS）

【シンポジウム】2017 年 12 月 20 日「再演、再制作、再展示」赤羽亨、石谷治寛、三輪健仁（IAMAS）

【シンポジウム】2017 年 12 月 21 日「資料の読み書きと教育」石谷治寛、松隈洋、渡部葉子（IAMAS）

【シンポジウム】2017 年 12 月 22 日「久保田晃弘：コードを記述し、実行し、保存する」市川創太、永田康祐、松川昌平（IAMAS）

【シンポジウム】2017年12月23日「三輪眞弘《夢のガラクタ市》二つの再演をめぐって」篠崎史子、有馬純寿、岡部真一郎、北野圭介（IAMAS）

【シンポジウム】2017年12月24日「藤幡正樹《Light on the Net》を解説する」飯田豊、喜多千草、篠原資明（IAMAS）

【研究会】2017年7月26日「1960～70年代に見られる芸術表現の研究拠点形成と資料アーカイブの構築」鈴木勝雄、松井茂、伊村靖子（IAMAS）

【研究会】2017年8月22日「1960～70年代に見られる芸術表現の研究拠点形成と資料アーカイブの構築」川崎弘二、原久子、鈴木勝雄、松井茂、伊村靖子（IAMAS）

【研究会】2017年9月26日「1960～70年代に見られる芸術表現の研究拠点形成と資料アーカイブの構築」成相肇、鈴木勝雄、松井茂、伊村靖子（東京国立近代美術館）

【研究会】2018年2月6日 文化庁国立近現代建築資料館「国立近現代建築資料館において採用すべき情報システムの比較検討業務」藤本貴子氏、入澤寿美、平野泉、小林賢司、松山ひとみ、松井茂氏、山田晃嗣、池田泰教、伊村靖子

【共同企画】2017年12月19日～24日第7回岐阜おおがきビエンナーレ「新しい時代 メディア・アート研究事始」（IAMAS）



岐阜おおがきビエンナーレ 2017 新しい時代 メディア・アート研究事始
12月19日シンポジウムの様子

◎テキスト

【解説】伊村靖子「「デザイン」をめぐる認識論的転回」ピアトリス・コロミーナ、マーク・ウィグリー著『我々は人間なのか？デザインと人間をめぐる考古学的覚書き』、2017年10月、pp. 315-319

【評論】伊村靖子「「精神生理学研究所」ーメディア論としての作家表現」『NACT Review 国立新美術館研究紀要』第4号、2017年12月、pp. 108-119

【インタビュー】伊村靖子、鈴木勝雄「美術資料をめぐる回想 稲憲一郎氏に聞く―「精神生理学研究所」(1969～1970年)を中心として」『NACT Review 国立新美術館研究紀要』第4号、2017年12月、pp. 318-332

【研究ノート】伊村靖子「1960～70年代に見られる芸術表現の研究拠点形成と資料アーカイブの構築」『情報科学芸術大学院大学紀要』第9巻、2018年3月、pp. 142-148

【座談会】長谷川新、伊村靖子、前林明次「「場所を作る旅」再論」『情報科学芸術大学院大学紀要』第9巻、2018年3月、pp. 119-204

◎社会的活動

国立新美術館客員研究員

日本美術オーラル・ヒストリー・アーカイヴ メンバー

「1960～70年代に見られる芸術表現の研究拠点形成と資料アーカイブの構築」
(科研費 15K02129)

「マス・メディア空間における芸術表現と情報流通の研究」(科研費 17K02368)
研究分担者

「1970年代における美術概念の再構築に関する研究：オーラルヒストリーを中心に」(科研費 16K02267) 研究分担者

◎学内の活動

【授業】総合学C、デザイン特論A

【授業】IAMAS 図書館・アーカイブ・プロジェクト、HDII 高精細映像技術を用いた表現研究プロジェクト